

資料展示：ブースのロンドン調査：

Life and Labour of the People in London

by Charles Booth 3rd ed. 17vols. Macmillan[1902-1903]

社会福祉の教科書で必ず紹介されるといってよいチャールズ・ブース(1840-1916)による報告書『ロンドン民衆の生活と労働』(Life and Labour of the People in London)は、初版が1889年に刊行され、17巻の最終報告書は、1902年から03年に刊行されました。1-4巻が貧困の問題、5-9巻が産業の問題、10-16巻が宗教的影響の問題、17巻が社会的影響の問題と結論にあてられています。

この「ロンドン調査」のハイライトは、420万のロンドン住民を8つの経済階層に分け、貧困率が30.7%であることを明らかにした点にあります。それらの数字は第2巻2章「貧困の統計」で棒グラフとともに発表されています。今から100年以上前の棒グラフです。

貧困率のほかにロンドンの街区を経済階層で色分けした「貧困地図」も有名です。黒が最底辺で、黄色が最上層、その間の階層が赤や青で塗り分けられています。現代社会でこのような地図を作製すれば差別の温床だと批判されるかもしれません。

この調査が行われた19世紀社会のイデオロギーは自由主義であり、貧困は怠惰や飲酒癖による個人の悪徳と考えられていました。しかし人口の30%もの人々が貧困であることを、個人責任と考えること自体まったくの疑問です。「ロンドン調査」の最大の功績はこの疑問を解き、貧困の社会的責任論の扉を開いたことにありました。

坂田周一著『社会福祉リサーチ：調査方法を理解するために』有斐閣 2003
から著者の了解を得て抜粋・引用させていただきました。



チャールズ・ブース「ロンドン調査」



チャールズ・ブース 1902

<展示資料リスト>

Booth, Charles, *Life and Labour of the People in London*. 3rd ed., 17vols. London: Macmillan, 1902-03.

Rowntree, B.S, *Poverty : A Study of Town Life*. London: Macmillan, 1901.

<関連所蔵資料リスト>

坂田周一著 『社会福祉リサーチ：調査手法を理解するために』有斐閣 2003

金子光一著 『社会福祉のあゆみ：社会福祉思想の軌跡』有斐閣 2005

石川淳ほか著 『社会調査 歴史と視点』ミネルヴァ書房 1994

阿部實「チャールズ・ブースの貧困調査活動の形成と展開」*日本社会福祉事業大学研究紀要* 52, 2005, pp109-129

山本卓「イギリスにおける自立支援型の年金政策 C.ブースの普遍主義的な年金構想を再考するー」*立教法学* 第71号 2006 pp225-281

B.S. ラウントロイ著 長沼弘毅訳 『貧乏研究』ダイヤモンド社 1954

(*Poverty : A Study of Town Life* の翻訳)

厚生大臣官房総務課 『最低生活の研究：貧困と進歩』(社会保障資料7) 1951
(*Poverty: A Study of Town Life* の第1部および終章の翻訳)

東京都社会福祉協議会 『東京都における低所得者層の諸類型』1971

東京都老人総合研究所社会福祉部門編 『高齢者の家族介護と介護サービスニーズ』光生館 1996

Booth, Charles. *Life and Labour of the People in London*. 9 vols and maps. London and New York: Macmillan, 1892-1897.

Fried, Albert and Richard M. Elman, *Charles Booth's London : a portrait of the poor at the turn of the century, drawn from his Life and labour of the people in London*. New York: Pantheon Books, 1968.

< チャールズ・ジェームズ・ブース略年表 >

1840. 3.30	穀物商の父チャールズと母エミリーの4子としてリヴァプールに生まれる。
1850	Royal Liverpool Institute の中等部に入学。数学ではトップの成績をとった。
1856	ランポート・ホルト汽船会社に入社する。
1860	父が死去。巨額な遺産を受け継ぐ。
1865	自由主義のキャンペーン活動に参加、スラム街を訪問しショックを受ける。
1866	2隻の蒸気船を建造、「ブース汽船会社」を創立。
1871	高級官僚の娘メアリーと結婚。よき伴侶となる。
1875 - 80	体調を崩すも「大不況」のなか会社を飛躍的に発展させる。
1886-1902	事業のかたわら「貧困問題」の解決に向けて、私費を投じて「ロンドン調査」を行う。全17巻5500頁の報告書が完成する。
1898	ケンブリッジ大学から社会学者として名誉学位を授与される。
1899	「老齢年金と老齢貧民 1つの提案」を出版する。「貧困地図」が完成。
1912	「救貧法会議」Poor Law Conference で議長をつとめる。
1912	ブース汽船会社の経営権を甥に委譲する。
1913	「産業界の不安と労働組合の政策」を出版する。
1914	第一次世界大戦勃発。再び事業経営に復帰。
1916.11.23	76歳で死去。

阿部實「チャールズ・ブースの貧困調査活動の形成と展開」*日本社会事業大学研究紀要*
第52集 2005年 pp109-129の内容を参照し作成させていただきました。

(2009/06/09 立教大学図書館)